



第446号

2024年7月

〒461-0004
 名古屋市東区葵2丁目6-35
 カトリック名古屋教区広報部
 電話 (052) 935-2223
 FAX (052) 935-2254
 news@nagoya.catholic.jp
 印刷所 株式会社 荒川印刷
 毎月第1日曜日発行

教区設立100年後の課題

AGIFTを告げに出ていこう！
 次世代に信仰をいかにつなぐか？
 「隔ての壁」を壊し「新しい人」になろう

教区ホームページ

福音のひびき

7月の説教者

7日	年間第14主日	ナジ・エデルベルトゥス (恵方町教会)
14日	年間第15主日	伴 八郎 (南山教会)
21日	年間第16主日	ファミアラガオ・ファルディマル・バカリサ (東海・長浦教会)
28日	年間第17主日	シュエ・ルイ・ジュン (鳴海教会)

トアン司祭叙階式

「聖心布教会、日本で39年ぶり」

5月25日(土)の午後、聖心布教会の司祭叙階式が、城北橋教会においてトアン新司祭。2022年12月に来日し、南山大留学学生別科に通い、日本語や日本文化などの勉学に励みながら叙階の準備をすすめてきた。



叙階の儀式の中で松浦司教の訓話があった。司祭の具体的な職務を果たすのに大切なのは「司祭であること」「司祭として生きる」という言葉と尊い生き方をもって、そのピースとなりバズルを埋め、神の

業が完成するということに心を留めて欲しいと司教は述べた。さらに、「司祭はキリストの代理者」というのが、代理を立てても、そこにキリストご自身はおられる。救いを求める人が現れた時、あなたと共にキリストはいて、その人を救う関わりをキリストがしている。その人を救うのはキリストご自身だが「見えない、そこにいるキリストの心」を見える形で表して欲しい、と結んだ。

叙階式の後、祝賀パーティが開かれた。ベトナムの青年たち、城北橋教会の信徒たちによる歌やダンスのお祝いも新司祭誕生の喜びに華を添えた。



輪島教会の被害

重蔵神社の様子

祝辞を述べられた聖心布教会オーストラリア管区ベトナム修道院長のホアン神父が「トアンに日本に行くつもりはありますか」と尋ねると彼は「はい、行きます」と一秒後に答えた」とエピソードを披露。異国の地で司祭として生きていくトアン神父に感謝である。参列予定だったトアン神父の家族の来日は叶わなかったが、叙階式やパーティの様子はベトナムに生配信され、ともにこの秘跡を喜びわかちあえたことであろう。

6月6日(土)と7日(日)と七尾教会の「のサポートセンター」のボランティアに参加した。3月に続き2回目であり、今回の参加は私を合わせて5人である。

当日オリエンテーションを行い翌日以降の活動内容の確認をした。今回は土曜日に輪島の重蔵神社で行われている各地から送られてくる支援物資、地元住民の農作物の仕分け配列をし配布する手伝いを行った。配布する一時間以上前に老若男女、子供達が並んでいた。一時間あまりで300人位の人が配布を受けた。その後、山の上にいる住民に水の配布を行い、輪島教会に行った。写真では確認していたが内陣、外壁の剥がれは予想以上だったが、同席した

一級建築士の方が、赤紙を貼られているが、土台の下が液状化現象している。土台がしっかり建物とくっついており、また、増築部分が地震の力を分散させておりその分崩壊しなかったと専門家の意見を述べていた。早急に立て直しの必要がなければ歴史的価値がある建造物なので、土台から横移動をして建物を残した方がいいのではないかと指摘していた。

輪島に行くのと里山海道は思った以上に酷く、山崩れ、道路の陥没、道路の凹凸はジェットコースター並みで車一台が何とか通れるように行政が工事を行っているが、人材が不足しているように感じた。輪島市内に入るとあちこちで崩壊した家屋がそのまま残っており、

り手つかずの状況だった。火災の現場は数日前より重機が入り撤去を開始したようだ。このように現地の悲惨な状況がまだ続いており、情報が都市部では流れていないのでメディアにも責任があると思う。シスターは「この現状を視察に来る団体は多いが、のサポートセンター」にボランティアを派遣してくれたに於いても青年以外参加してくれなかった人は皆無だ。」と話していた。確かに視察よりも現場に入って汗水垂らし一緒に働く事によって被害の大きさが分かり状況が把握できると思う。情報の発信も必要だ。

スタッフの長井さんが現在は一人なので仕事量が多く、募集をしているが集まらないので「早くもう一人のスタッフが来てくれませんか」と懇願していた。

日曜日は5月より新たに立ちあがった地域住民の憩いの場となっている「じんのびCafe」をミサ前に設置し、ミサ後オープンし、住民の話し相手をしたり、飲料、菓子の提供の手伝いをしてきた。毎週担当が決まっております。提供品がいろいろ変わるの事だ。今回は金沢教会のベトナム人のグループでベトナムの

お菓子を前日夜中に準備し、朝、金沢から運搬してきたのである。ちなみに第一は金沢教会、第二はベトナム人グループ、第三は金沢教会、第四は富山教会、第五は不定期(6月は名古屋教区青年)が担当するようである。

今回は七尾でのボランティアは行わなかったが、前回行った時の行動を少し紹介する。

【活動内容】
 カリタスの作業内容は軽トラ(AT・ミッシェン)または2トン車(ミッシェン)で被災された家の中のを壊れた家具や家財、ガラス一式、コンクリートブロック等と仮の集積場に運び、午後からは小分けした物を集積場に運搬仕事メインだ。(危険を伴う解体作業はしない)

積み込みや積み下ろしは別のボランティアの人が行うので思ったよりハードではない。二人一組で動く場合や一人で運搬する場合があるが、被災者の自宅までと仮置き場の場所のナビ操作が出来れば大丈夫だ。

【資材配布】
 ボランティアセンターには大半の物や資材が無償で貸し出され、提供されてきた。

内容 ヘルメット、軍手、防刃手袋、マスク、雨具

防刃中敷き、ペットボトル飲料、栄養ドリンク等

【高速道路通行証明】
 七尾社会福祉協議会のボランティアに参加する人は、日本高速道路株式会社事前に申請書を作成し、七尾社会福祉協議会の承認印があれば往復無料になる。詳細はネットで確認してほしい。サイト名は「災害ボランティア車両 高速道路通行証明書発行サイト」で、6月30日までとなっているがETCレーンを通れるかもしれない。

※大阪教区は往復のガソリン代を支給してくれているのである。

※布池教会は片道の交通費(JR、高速バス、夜行バスまたは高速代)の支給を開始した。

※関東圏の人は夜行バスで早朝、金沢に来て市内見学等を行って七尾に入るようである。

【ボランティア保険】
 ボランティア活動を行いたいと思う人は「ボランティア保険」に加入する必要がある。各地の社会福祉協議会で手続きしてほしい。期間は4月1日より一年間で50円から800円加入できる。内容は各地の社会福祉協議会で確認してほしい。手続きはすぐできる。

(布池教会 榎戸敬三)



インターナショナルミサ 「よりよい未来のために」

2024年インターナショナルミサが「よりよい未来のために」をテーマに、難民移住移動者委員会の主催で、5月12日(日)カトリック南山教会で開催された。愛知県内24教会から300名近くの参加があり、たくさんの方々の祈りの場を持つことができた。

教会学校教師会との共催であり、子どもたちの参加も多く、奉納ではミサ前のワークシヨップでマリア様への感謝の気持ちを込めて作った折り紙のロザリオと、より良い未来のシンボルとしての

苗木が奉げられた。共同祈願でも子供たちにより、「イエスが大好きです」「友達を大切にしていきたいです」といった素直な祈りがささげられた。

ミサ後の料理持ち寄りによる茶話会では、子供たちには司教企画のじゃんけんゲームで盛り上がり、教皇来日の記念メダル、ロザリオなどの景品が用意され、子供たちは大喜びであった。

また、各テーブルとも話が大きいに盛り上がり、豊かな交わりの場となった。

(難民移住移動者委員会)

今年度第1回

宣教司牧評議会が行われる

今年度の第一回宣教司牧評議会が6月2日(日)14時から17時までカトリック布池教会地下ホールで行われた。松浦悟郎司教をはじめ各委員会、各ブロックの代表者35名が出席した。松浦司教の導きによって、全員で開会の祈りとして主の祈りを捧げて始められた。

確認・報告事項として、先に、カリタスのサポートセンター長、片岡義博神父より能登半島地震被災地への視察についての報告があった。教区での支援を考慮して、6月29日(土)と7月20日(土)で、まずは名古屋教区の方々に現地視察案が示された。今回の被災地視察対象者については、宣教司牧評議会のメンバー、各教会の社会委員のメンバーなどが考えられるが、今日の評議会でも検討してほしいとのことであった。その他の確認、報告事項は、今年度行事担当ブロック分担当の確認、ダイヤモンド・金銀祝行事について、卯辰山殉教者祭について、2023年度の宣教司牧評議会の決算についての報告、高齢者への司教祝福カードについてのスケジュールの確認である。

その他、宣司評の各文書送付方法についてはメールを主な通信手段として使用することの確認があった。

審議事項は、今年度ダイヤモンド・金・銀祝の実施時期について、ここ数年聖香油ミサの中で行ってきたが、昨年から聖香油ミサと別にすることの可否を検討し、今年度も聖香油ミサ中に行うことになった。8月の平和旬間の取り組みについて、名古屋地区は8月11日(日)布池教会での平和に

へへの寄付、募金は教区で教会関係復興の支援に用いることや今後の復興支援を考える必要が示された後、各グループで能登半島震災やその復興支援から考えられる教区としての防災、減災の中・長期的ビジョンについて意見交換をした。

お知らせは、①9月の全国青年ネットワークミーティング、②6月8日(土)の信徒使徒職大会、③一粒会より東京の日本カトリック神学院にて開催予定の「ザビエル祭」と6月30日(日)の「一粒会の集い」(東海地区)があった。

閉会には、全員で「災害被災者のための祈り」を捧げた。

2024年度 愛岐ブロック兄弟の集い in 瀬戸 報告

名古屋教区の愛岐ブロックは、愛知県と岐阜県内の春日井、高蔵寺、瀬戸、多治見、瑞浪の教会で構成され、教区からの情報や各教会の様子を情報交換し合うブロック会議を年4回行っている。また年に一度の「兄弟の集い」が5月26日にあり、瀬戸教会を会場に老若男女が50人近く集まった。昨年ワールドユースデーリスボン大会に参加した多治見教会の近松優美さんによる講演があった。映像からは、世界中から集まった若者

たち(50万人)の熱気とそれを支えるポルトガル教会の様子を垣間見ることができた。近松さんの話を聞いて、神様によって世界中の人々が平和に導かれていること、司祭や司教に身近に触れ、親しみを感じながらも、聖職者は神の息子として選ばれていること、神は、一人一人を愛されていること、祈りの力、信仰の見直しなど、彼女の受けた恵みのお裾分けしてもらった気分であった。講演後、7グループに分かれて、感想や自己



紹介など5年ぶりに信徒同士の交流をすることができた。その後3人の司祭の共同司式ミサによって三位一体の祝日を恵みのうちに過ごした。

(太田智恵子)

名古屋ダルクと竹谷神父様

3月に帰天した竹谷基神父と深い関わりがあったダルクのメンバーによる寄稿文を紹介する。

竹谷神父様は、長年、とがあります。そんな中で竹谷神父様との出会いがあり、1990年ごろにダルク後援会が誕生したそうです。

竹谷神父様は、後援会としてどのように資金を集めようかと試行錯誤してこられました。時には教会の前で秋刀魚を売ったり、売れるものはなんでも売ってダルクの活動を支えてくださいました。

バザーやチャリティーコンサートで支援金を集めることができたが、活動資金がありません。支援協力をお願いをして動いていただくと、聞いたこ

名古屋市から補助金がいただけるようになるまで、後援会会長として、やれることはなんでもやって支えてくださっていました。

竹谷神父様はとてもぶっきらぼうな人で(笑)、お酒が好きで人付き合いが苦手、よく人にも怒鳴ったりする方でした。ちよつと怖そうなお雰囲気です。竹谷神父様は、後援会としてどのように資金を集めようかと試行錯誤してこられました。時には教会の前で秋刀魚を売ったり、売れるものはなんでも売ってダルクの活動を支えてくださいました。

バザーやチャリティーコンサートで支援金を集めることができたが、活動資金がありません。支援協力をお願いをして動いていただくと、聞いたこ

名古屋市から補助金がいただけるようになるまで、後援会会長として、やれることはなんでもやって支えてくださっていました。

竹谷神父様はとてもぶっきらぼうな人で(笑)、お酒が好きで人付き合いが苦手、よく人にも怒鳴ったりする方でした。ちよつと怖そうなお雰囲気です。竹谷神父様は、後援会としてどのように資金を集めようかと試行錯誤してこられました。時には教会の前で秋刀魚を売ったり、売れるものはなんでも売ってダルクの活動を支えてくださいました。

バザーやチャリティーコンサートで支援金を集めることができたが、活動資金がありません。支援協力をお願いをして動いていただくと、聞いたこ

倉地光一

AJU自立の家・小牧ワイナリー 「春の葡萄酒まつり」

5月3、4日に小牧ワイナリー春の葡萄酒まつりを開催した。今年は天候に恵まれ大勢のお客様に来場して頂き、盛況なイベントになった。毎年3日間行ってきたが、今回は2日間と内容を吟味し、少ないスタッフと仲間とボランティアの皆様が協力があつて目標額を超える売り上げを達成することができた。



今回は主力商品のオリジナルワインが非常に好評だった。また、ブドウの搾りかすからつくった天然酵母で地元特産のパンを使用して、名古屋経済大学管理栄養学科の学生たちが考えたオリジナリティを追求した。

仲間たちの感想

（林聖也さん）
ナルメニューも販売し、完売することができた。ワイナリーのSDGsな取り組みが着実に実を結んでいる。ワイナリーツアー（圃場&醸造の説明とワインのテイステイング）やバードウォッチングは募集定員を超える盛況ぶりであった。

（岩本香代さん）
私はソフトクリームを売りました。小さい子や障害をもった子にソフトクリームのやり方を教えてあげました。いっぱいお客さんがソフトクリームを買ってくれました。グループホームの方が来て仲間も買ってくれたので嬉しかったです。お昼ご飯に海鮮焼きそばとドリンクフルトを買いました。おいしかったです。

（緒方章一さん）
1日目は名古屋経済大学の学生さんと売り子をやりました。緊張しましたが、2日目は焼き台でドリンクフルトを売りました。熱かったです。

おかざき九条の会憲法の話

望月衣塑子さん、エネルギーシユに語る



東京新聞社会部記者、望月衣塑子さんを5年ぶりに迎え、講演会を5月18日(土)せきれいホールで開催した。参加者は35人だった。ガザへの募金は33976円で、全額ユニセフに送金した。

望月さんの話は、ガザのジェノサイドの実態からはじまり、5年間で43兆円の防衛費の増額、日米新型りゅう弾砲の共同開発、自衛隊の155ミリりゅう弾砲をアメリカに提供する検討などが話された。全国の自衛隊基地に核シェルターを建設する計画や、日本の防衛産業を強化し、国営化も視野に入れる法案も準備している。南西諸島のミサイル基地増強が進められていて、与那国島では、ミサイル部隊の新設、軍港をつくり2000メートルの滑走路延長が行われている。島民の避難も計画されている。また、官邸の機密費が、メディア対策にも、選挙・国会対策にも使われているのではないかと警告もあつた。ジャーナリズム問題にも言及して、実態の様子と報道されない問題を話された。最後に、政府をしばる憲法九条と平和憲法を変えさせない運動を拡げる重要性を語った。エネルギーシユで圧倒的な話しぶりの90分であった。

参加者のアンケートからの感想を紹介する。



「平和ボケしている私たちに、一喝をいただきありがとうございます。ごさいます。」「望月さんのお話を直接聞くことができ、圧倒的な迫力でガンガン学ぶことができた。自分の場所、もつともつとやれることがあると思えました。」

「読売・日経が軍拡路線を堂々と主張するようになったことは、思っていませんでした。聞きしに勝るエネルギーシユな望月さんに感服。」

「自民党そのものの腐敗と同時に大軍拡の危機が進んでいることが強く感じられた。」

（社会活動ネットワーク 加盟団体おかざき九条の会 平井義明）

名古屋教区カトリック女性の会 「樹の会」第17回総会



「樹の会」は2024年度の総会と講演会を、5月18日に膳棚教会で開いた。総会では、昨年度の活動報告、決算報告、続き今年度の活動計画案、予算案もつづがなく承認された。今年度は役員交代はなく、会長金森タイ(膳棚)、副会長千村かつ子(東山)、会計松坂美幸(東山)、日カ連理事中島真理(布池)が引き続き任に当たることと新年度がスタートした。

- ① 福信館炊き出し ② 児童養護施設「麦の穂学園」
- ③ DVサポート「かけこみ女性センターあいち」
- ④ 岐阜タルク女性ハウス
- ⑤ 船員支援「ステラマリ」
- ⑥ 世界祈禱日の担当
- ⑦ 円ブリオ(胎児の生命を護り、その命が成り立つよう働いている団体)
- ⑧ 日本カトリック女性団体連盟(日カ連)に加盟し共働。

金森会長は故ホイヴェルス神父(イエズス会)の「人生の最晩年にベツドに横たわったままになつても、私は祈ることが出来る」という言葉を持って挨拶し、最後の最後まで自分ができることを見つけて進むことを、出席会員一同、心に誓い合った。

総会に続き、山野聖嗣神父(港教会主任、カリタス福祉委員会担当司祭)が「旧約聖書・新約聖書への扉」のテーマで講演を行った。骨子は次の通り。まず、マタイ22章からイエスの教える神の国の義、つまり最も大切な掟である「神への愛」「人への愛」が語られた。次に一気に遡って旧約聖書にある人間の罪の赤裸々な姿を、例として「創世記」の弟アベルを殺してまで自分の立場を正当化しようとしたカインの生き方、サムエル記下11章のダビデ王の犯した罪はモーセの十戒の

恵方町にぎわいひろば

5月26日(日)にAJU自立の家サマリアハウスでは「恵方町にぎわいひろば」を開催した。主催は障害当事者を実行委員長とする、恵方町にぎわいひろば実行委員会である。2019年までは、バザー「わだちまつり」を開催していたが、コロナ禍により4年間、開催中止となり途切れていた。

また、今回は車いす体験ブースを作り、車いす利用者から操作方法を教えてもらい、来場者が必死に車いすの輪っかを回して小さい坂を上ったり、恐る恐る電動車いすを操作したりする姿があつた。

パラリンピック種目にもある「ボッチャ」の体験コーナーも設置した。ボッチャは的球に向かってボールを投げ、いかに

自分の投げたボールを的球に近づけるかを競う競技である。参加者同士も対戦形式で大いに盛り上がった。

各ブースを回ってスタンプを集めると景品がもらえるスタンプラリーもあり、思い思いに、にぎわいひろばを楽しんでもらうことができた。

(AJU自立の家 林佑亮)

第16回平和祈念の集い

テーマ「平和をつなぐ」
—平和の備えは何によって出来るのか?—
講師 小林武氏 沖縄大学客員教授

日時 8月4日(日) 13:00~15:00 (開場12:30)
場所 カトリック南山教会聖堂 (名古屋市昭和区南山町1 地下鉄鶴舞線「いりなか」下車徒歩5分)

プログラム 講話 「憲法9条を手に一沖縄で考える」
合唱 南山教会聖歌隊
朗読 「沖縄戦最後の証言」より
平和を求める祈り

主催 南山教会信徒 名古屋友の会 有志
ピース9の会
共催 南山教会社会委員会
連絡先 TEL 080-3066-3433 井爪光子

2024年 平和旬間について

今年も平和旬間(8月6日~15日)が近づいている。世界では大変な紛争、戦争が続き、国際社会の分断も起こっている中、日本も敵地攻撃を可能にし、兵器を作って輸出する道も開き、戦争できる国へと向かっている。教皇フランシスコも平和のために世界に向けて発信し続けており、私たちも、教皇と心をつなげて平和のために祈り、できることを共に考える機会としたいという松浦悟朗司教の意向が先頃、発表された。今年の企画は下記の通りである。

平和旬間テーマ
「いのちを守る・平和を築く
~こどもとともに考える平和~」

*名古屋カテドラル(布池教会)での企画
8月11日(日)
13:30 第一部(大聖堂地下ホール)
動画を観て、大人とこどもに分かれて分かち合う
15:00 第二部(大聖堂)
平和祈願ミサ(松浦司教司式)

*北陸ブロック(金沢教会)
8月12日(月・祝)
13:00 第一部 おはなしとコーラス
第二部 平和祈願ミサ(松浦司教司式)

めぐみかん
ガンバル!!
.....by あこ

人間の目は絶対に「裏」を見ることができない

鏡に映すと裏も見えるような気になるけれど、鏡の裏はやっぱり見えない

覗き込もうとしてみても裏はやっぱり表のうしろに隠れてしまおう

そんな「裏」に神さまは大切な大切な大切な何かを隠している気がしてならないのです...

7月の教会暦

1日(月) 北陸B司祭会議*
6日(土) カトリック看護協会例会

8月の主な教会暦(主日・祭日など)

4日(日) 年間第18主日
6日(火) 主の変容(祝)
6日(火) 15日(木) 日本カトリック平和旬間
11日(日) 年間第19主日
15日(木) 聖母の被昇天(祭)
18日(日) 年間第20主日
25日(日) 年間第21主日

7月の教会暦

1日(月) 福者ペトロ岐部司祭と18殉教者(記)
3日(水) 聖トマ使徒(祝)
7日(日) 年間第14主日
11日(木) 聖ベネディクト修道院長(記)
14日(日) 年間第15主日
15日(月) 聖ボナベントゥラ司教教会博士(記)
21日(日) 年間第16主日
22日(月) 聖マリア(マグダラ)(祝)
25日(木) 聖ヤコブ使徒(祝)
26日(金) 聖マリアの両親 聖ヨアキムと聖アンナ(記)
28日(日) 年間第17主日
29日(月) 聖マルタ 聖マリア 聖ラザロ(記)
31日(水) 聖イグナチオ(ロヨラ)司祭(記)

8月

4日(日) 三河B「平和旬間ミサ」
6日(火) 15日(木) 日本カトリック平和旬間
10日(土) 典礼委員会コアミーティング/信徒協役員会
11日(日) 教区平和旬間行事*
12日(月) 北陸ブロック平和旬間ミサ*
13日(火) 樹の会
25日(日) 北陸ブロック一粒会の集い(福井教区)*

7月

4日(木) 常任司教委員会 会議
16日(火) 19日(金) 臨時司教総会
19日(金) 司祭養成チーム会議

7日(日) 城東B会議/愛岐B司祭会議
8日(月) 城北B司祭会議
9日(火) 樹の会/正義と平和委定例会
11日(木) 顧問会*
13日(土) 典礼委員会コアミーティング/殉教者委定例会/信徒協役員会
14日(日) 三河B会議・司祭会議
16日(火) 難民移住移動者委員会
17日(水) カリタス福祉委員会
20日(土) レジオ・マリエ「名古屋クリア」
21日(日) 城北B会議/城南B会議
25日(木) 月集*
30日(火) 城南B司祭会議

7月

4日(木) 常任司教委員会 会議
16日(火) 19日(金) 臨時司教総会
19日(金) 司祭養成チーム会議

7月

4日(木) 常任司教委員会 会議
16日(火) 19日(金) 臨時司教総会
19日(金) 司祭養成チーム会議

8月

4日(日) 三河B「平和旬間ミサ」
6日(火) 15日(木) 日本カトリック平和旬間
10日(土) 典礼委員会コアミーティング/信徒協役員会
11日(日) 教区平和旬間行事*
12日(月) 北陸ブロック平和旬間ミサ*
13日(火) 樹の会
25日(日) 北陸ブロック一粒会の集い(福井教区)*

8月

4日(日) 三河B「平和旬間ミサ」
6日(火) 15日(木) 日本カトリック平和旬間
10日(土) 典礼委員会コアミーティング/信徒協役員会
11日(日) 教区平和旬間行事*
12日(月) 北陸ブロック平和旬間ミサ*
13日(火) 樹の会
25日(日) 北陸ブロック一粒会の集い(福井教区)*

8月

3日(土) 全国デスク 会議
6日(火) 原爆追悼ミサ

8月

3日(土) 全国デスク 会議
6日(火) 原爆追悼ミサ

**「ただいま、つなかん」
第48回日本カトリック映画賞に決定**

放送、映画、視聴覚メディアに携わるカトリックの国際的団体 SIGNIS (世界カトリックメディア協会、本部ベルギーのブリュッセル) の日本組織 SIGNIS JAPAN (カトリックメディア協議会、会長：土屋至) は、2023年度「日本カトリック映画賞」にドキュメンタリー映画「ただいま、つなかん」[風間研一監督、115分、制作著作：文化工房]を決定し、7月6日(土) 星陵會館ホール(東京都千代田区永田町)にて、上映及び授賞式と、風間監督と SIGNIS JAPAN 顧問司祭、晴佐久昌英神父の対談を行った。

「日本カトリック映画賞」は、前年の12月から次の年の11月までに日本国内で制作・公開された映画の中からカトリックの世界観と価値観に最も適う作品を選び、贈られるもので、今年で48年目を迎える。今回の受賞作『ただいま、つなかん』は、東日本大震災で被災した宮城県唐桑町の牡蠣養殖業・菅野和亨・一代夫妻と彼らの基に集まってきた大勢のボランティアの若者たちとの交流を描く感動的なドキュメンタリー映画である。

SIGNIS JAPAN 顧問司祭の晴佐久神父は、受賞理由の中で「この作品は、「復活」の映画だ。一見そこには、この世の絶望が映っているようにも見える。突然襲ってくる津波の悲劇や、愛する人との理不尽な死別。さらには、生活を破壊するウイルスの流行。現実の十字架は、あまりにも過酷だ。しかし、よく見るとそこには、絶望を優しく包み込む希望が映っている」と述べ、この作品を「第一級のドキュメンタリー映画」で、「いまなお試練の内にある人に復活の未来を見せてくれる、ときめく映画」と称賛し、最大限の評価を与えている。

告知板

◇7月の炊き出し
木4日布池、11日ひまわり・南山・樹の会、18日聖霊・南山・樹の会、25日城北橋
金5日喜望の会、12日布池、19日恵方町、26日長浦

**日本カトリック神学院の
ザビエル祭2024に一緒に行こう!**

出発日 11月23日(土・祝) /日帰り
行き先 日本カトリック神学院(東京都練馬区関町東2-7-10)
主な行程 (東海地区) JR名古屋駅より新幹線で東京へ、(北陸地区) JR金沢駅・富山駅より新幹線で大宮(または東京)へ、JR、西武鉄道を乗り継いで神学院へ行きます。ザビエル祭の企画を午後2時頃まで楽しみ、帰路・新幹線でそれぞれ名古屋・金沢・富山へ。
集合 (東海) JR名古屋駅 朝6時、(北陸) JR金沢駅 朝5時半・JR富山駅 朝6時
*詳細は出発の2週間前にお知らせします。
参加費用 6,000円(往復交通費、昼食代)
募集対象 中学生以上の男女、および保護者
定員 東海地区・北陸地区・スタッフも含め全部で30名
申込先 (郵便) 461-0004 名古屋市東区葵2-6-35 カトリック名古屋教区本部事務局内 一粒会・平田豊彦神父 (FAX) 052-935-2254 カトリック名古屋教区本部事務局内 一粒会・平田豊彦神父
※申込受付後、参加費用の振込先を連絡します。
※申込メッ 8月31日(土) 必着
問合せ 山内雪(090-8420-2318)、菅野成之(090-6691-8025)、西村由美子(090-1279-9932)
主催 名古屋教区一粒会・青少年司牧部・中高生会

**日本カトリック平和旬間
8月6日から15日まで**

1981年、聖ヨハネ・パウロ二世教皇は広島で、「過去を振り返ることは、将来に対する責任を担うことである」と述べられた。戦争を振り返り、平和を思う時、平和は単なる願望ではなく、具体的な行動でなければならない。そこで日本のカトリック教会は、その翌年、もっとも身近で忘れることのできない、広島や長崎の事実を思い起こすのに適した8月6日から15日までの10日間を「日本カトリック平和旬間」と定めた。

お詫びと訂正
6月号4面「一粒会の集い」の案内記事で、講演者のアルディ・ハヨン神父の名前がまちがっていましたので、下記のように訂正し、お詫びします。
誤：ヨハン → 正：ハヨン

668件 35,573,214円
目標額 40,000,000円 (5月末現在)

建設費の返済に協力を

達成率 約88.9%

郵便振替 00810-5-50605
加入者名 カトリック名古屋教区
通信欄に「福信館建設」と必ずご記入ください。

〈カルメル修道会日比野修道院、黙想企画〉

【旧約聖書から学ぶキリスト教霊性】

—キリストの十字架の恵みをより味わうために—
日時 7月20日(土) 14:30~16:30
テーマ レビ記の全体構造とメッセージ①
—シャロームの実現のために、神の創造のわざを引き継ぐ—
持ち物 必ず聖書(旧約+新約)をご持参ください。
場所 カルメル会日比野修道院(日比野教会)、参加費無料
どなたでもご自由にご参加下さい。
担当 志村武神父(カルメル修道会)
問合せ 日比野修道院(052-671-1003)
以降の予定 9月21日(土)、10月19日(土)、11月16日(土)

【静修の集い】

日時 10月26日(土) 10:00~15:00
講話担当 九里彰神父(カルメル修道会)
スケジュール 講話①、ご聖体顯示、昼食、講話②、ミサ、茶話会
参加費 無料(自由献金をお願い致します)。どなたでもご自由にご参加ください。
持ち物 昼食(各自持参)、聖書(旧約+新約)
問合せ 日比野修道院(052-671-1003)

2024年度 正義と平和委員会 学習会

第1回「PFAS問題」

日時 7月9日(火) 10:30~12:00
会場 福信館2階(布池教会東)
講師 浅野幸治氏(正義と平和委員会委員、豊田工業大学特任准教授)
主催 カトリック名古屋教区正義と平和委員会
連絡先 浅井幸治 TEL 090-8860-3627
どなたでも参加できます。無料

チャリティーサマーコンサート

日時 8月24日(土) 13:30開始(開場13:00)~14:45終了予定
場所 カトリック高蔵寺教会聖堂
交通 ①グルッポふじとうの駐車場に駐車後、烏洞橋を渡り徒歩13分
②公共機関 JR高蔵寺駅北口から名鉄バスにて烏洞橋下車徒歩8分
内容 聖歌・歌謡曲・唱歌・オルガン演奏など(参加者全員で歌って踊るコーナーあり)
参加費 無料=募金箱を設置して義援金を集めます。どなたでも気軽におこしください。
送金先 エスナック教育里親グループ
目的 バングラディッシュ(ファティマ教会地域)の竜巻被害地域に、オペレート修道会を通して義援金を届けます。
主催 チャリティーコンサート実行委員会(川口)
問合せ TEL 080-5106-0127